

## あとかき

周年記念事業のテーマ性は、過去歩んできた道筋や、実績・成果を誇るためのものではありません。節目となる“新たな出発点”に立って、未来を展望し、これからの足取りを策定していく姿勢の中にこそあるのです。また、情報発信のターゲットは、内部ではなく外部です。

その意味で、当協会の10周年記念事業は、“地域社会との対話”をコンセプトに、記念講演や公益事業（からくり時計をJR静岡駅に寄贈）、感想文コンクールなどを実施してきました。

10周年記念誌の編集方針でも、10年の足跡を留めることも大切ですが、むしろ、21世紀への広告文化のあり方を主テーマに組み立ててみました。

節目とはいえ、10年の歴史ではまだまだ若輩です。バブル後の平成不況の中で苦しい戦いが続きますが、常にアグレッシブな挑戦で新しい時代を切り開いてまいります。次の10年、20年への成長に、どうぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

10年史の制作にご協力を賜りました座談会の諸先生方、貴重なご意見、メッセージをお寄せいただいた会員の方々に改めて厚くお礼申し上げます。

平成13年12月

静岡県広告協会10年史委員会

宮城島安宏（静岡新聞社）

法月 正光（電通東日本）

周布 兼和（電通東日本）

稲葉 卓（西日本電信電話）

武田 仁（西日本電信電話）

神田 敏明（静岡新聞社）

飯塚 一男（静岡新聞社）

芳澤 洋州（静岡県広告協会）

市川 恵一（図書印刷）

桜井 敏雄

坂東 芳朗